

1975・11・15

東京蜘蛛談話会

少々古くなってしまい恐縮ですが、8月8日付の大熊千代子氏の便りを紹介いたします。

「談話会通信No.6とKISHIDAIAの総目次をお送りいただきまして有難うございました。暑い中を皆様とて頑張っていらっしゃる御様子、感心いたしております。私は今年6月中下旬にかけてはじめて北海道(道東方面)に採集に行き、アシナガクモ類を5種とり、一応満足して引き上げてきましたが、その後は私事雑用に追れて何も出来ていません。一中略—皆様にもどうかよろしくお伝え下さいませ」

大熊氏は、東南アジアにも調査に行かれ、アシナガクモの研究に力を注いでおられます。是非研究への協力をしたいものです。アシナガクモ類は♀では外部生殖器が明瞭でないため、同定さえもむずかしいのです。お手持の標本があまりましたら、研究材料にしていただくのも、クモにとっては本望だと思えます。

なお今年北海道には、栗原輝代子・田中理恵の両氏も行かれたそうです。

大河内哲二氏より10月14日の消印で、便りがありました。

「一前略—今夏、福島県の阿武隈鐘乳洞へ行ってきました。窟と大きな洞でしたが人が多くクモどころではありませんでした。近くに入水鐘乳洞というのもあるようです。たぶん古いので調べられているのでしょうか、久しぶりにクモのことが思い出されました」

氏の便りの中にもあるように、久しぶり

にしか思い出せないようにしている校務がうらめしく思います。談話会の結成メンバーで、クモの研究についてのひらめきは大変なものなのに、本当に残念です。

高橋米夫氏からは青森県の新聞のクモ採集をいっはいあつていただきました。クモの記事のないのは残念でしたが、皆様も、ちょっとしたクモの記事を、本会に収集しておくべく、ご協力下さい。小さな記事程、うそれしめます。将来人文分野で、重要な資料となるでしょう。

ヤスデ大発生に悲鳴

十和田市 農産部 家の中までソロソロ

十和田市の山間地区にヤスデが大発生、家屋の中に入り込み、地区の面々が驚愕を覚えている。市でも対策に乗り出したが、業務が少なく手回し上げの状況、大医学部衛生虫学教室の指導を仰いで対策に大わらわだ。

ヤスデが発生したのは、同地区の山間地区、昨年にも発生したが、今年はとくにひどい。田植えを終った大月上旬から出始め、二週かお五時ごろの黒い線状の虫で、早期から農家の苦悶の音が聞かれる。牛の乳が出なくなり、飼料もこの虫が乳管をふさいでいたという話もある。人体への影響はないが、地味は天幕の虫に近づき、マイローゼン除けだ。

高橋氏の切り抜きより、クモではありませんが、ご紹介しませう。(東奥日報、1975・7・4、日付3面)

KISHIDAIA 原稿募集中

×印まじか、宜しくご協力下さい

クモの切手 その後

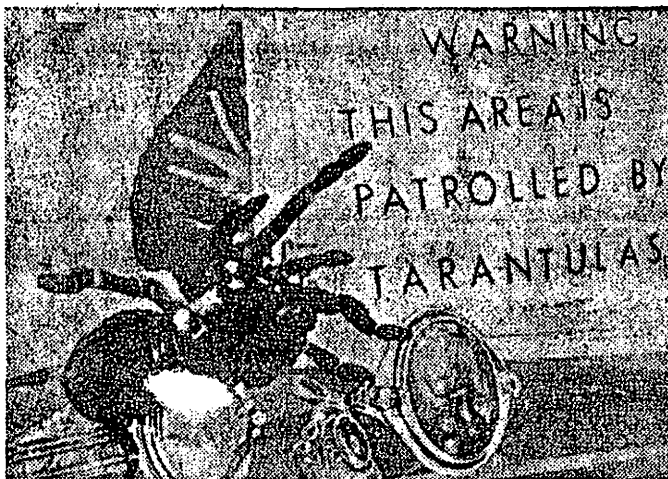
拝啓、談話会通信No.7とハガキ受けとりました。種々の事情でまったくお席でないか自分としても残念です。談話会通信No.7にクモの切手のことが書いてありましたが、お知りかもしれませんが、チャド発行のもの他にもクモを因案にしたものがあります。一つはBritish Indian Ocean Territory発行の3枚組のうち1枚がクモで他の1枚が蝶・1枚が海産動物となっています。発行1973年、これは新宿京王百貨店で購入、その時は320円だったと思います。また代々木の郵便会館地下売店にもあったようです。これを購入したのが1年位前です。その後どうなにかわかりません。もう一つはRepublic of Korea発行のもの、クモの切手とはいいいかたないが、クモが英産園から血をすうという因案で上にクモの糸網があります。発行1971年、これはどこで買ったかわかりませんが、20円だ

たと思います(東京でかいました)。なお前のもの(B.I.O.T.)のクモは *Nephila madagascariensis* で、マダガスカルジロウクモとてそういうのでしうか。以上お知らせしておきます。 敬具

(1975.9.27. 吉田 哉)

吉田氏の著書、全文を紹介しました。吉田氏には、御礼申し上げます。

なお、クモの切手 3の後のその後もありました。先日(10月26日)、小平市のスーパーマーケットにある薬屋に、ベビーフードを買いに行ったところ、切手がいろいろおいてあるので、よくみるとチャド発行のクモの切手がありました。【世界の昆虫切手】シリーズ、バルサン紙と印刷された袋に入っていたもので、「ください」というと、「どうぞ」というので、「まちもください」というと「どうぞ」といわれました。例の2枚の切手をバルサン紙は買わずに、もらって来ました。またどこかの薬屋には、のこっているかもしれません。(松本)



通信No.6の7p.に、少し紹介しておいた「番クモ」の記事です。どなたか、種名までわかる方はいらしゃいませんか? p.5の「バットクモ」と同種のようなちがうような……どうでしょう。アメリカでは、バット屋で、売られているようです。(松本)

12-VI-1975. 発行日(日付)不明

盗難防止に毒クモ

「注意。毒クモ・タランチュラがパトロール中」——サンフランシスコ市の宝石店の飾り窓に、張り紙とともに、毒クモの不気味な姿(写真)・番備保険社から次の代わりに派遣された「ハンリエ」などと名づけた「番クモ」のおおびで、宝石箱がめつきり盗った、と店主の嘴。

(AP)

談話会の会員は65名もいます。是非、KISHIDAIAに投稿して下さい。

—KISHIDAIA 原稿募集中—

1人が1頁分(45×35)1575文字(句読点と含む)かけば、もう1冊には多量の量になります。宜しく、Draglineの欄なら少なくて済みます。

クモについての放送やら本やら
をごちゃごちゃと書いて行きます。

。8月8日(金) 7時半からの「日本の自然」
にナガコガネクモが捕食している場面
とイオウイロハシリクモが捕食している
場面が放送されました。冒頭にもクモ
が出たらしいのですが見逃しました。ご存
じの方もっと詳しくお知らせ下さい。

(松本)

。絵本を紹介します。得田之久(1975)
えほんちいさなせかい「くものいえ」童心
社・東京、29pp. 21cm×19cm.

ナガコガネクモのようなクモです。もし
そうだとすると、木の枝の先に円網を張
っているのは珍らしいことでした。

(松本)

。折井英治(1966)なせなせ疑問箱
オウ集、法政大学出版局、中にはモ。

pp.140-144にかけてクモのことが出て
います。「クモはどうして巣をまるくつくる
のでしょうか。」という題です。解説に
は、あみと巣がちがうこと、あみは捕食に
巣は住居に使うこと、クモの中にはあみを
はらうクモもいること、あみをはるクモ
でもまるいあみをはるとはまわっていない
こと、オニクモ・ジロウクモがまるいあみ
をはること、まるいあみでもたてとよこにはる
ものがあること、オキクモは扇子を半分開
いたようなあみをはること、サラクモは巣を
まぶせたようなあみをしていること、北海道
には水中にあみをはり、巣にしているクモ
がいること、ジクモやトクテクモは土の中
で暮していること、ヒラタクモやハエトリク
モの巣は、雨戸の内かかわり物置の壁に白
い袋のようにはりついていること、草の葉をおり
あげて巣にしているクモもいること、ユカヤ
マンロクモはおし入れの奥などを争っている
ことなどが書かれています。しかし、なぜ
クモが巣をまるくはるのかということは
書いてありません? して。(松本)

。岡田一次(1975)ミツバチの科学。
玉川大学出版部、182p. A5. の中には
宿敵ブラックリスト: 昆虫・クモ・クモの
仲間と題して、

pp.88-89

にクモが出ています。全文紹介します。
「クモの仲間では、ミツバチを捕食する種類
が多く知られている。ミツバチは強力な毒針を
備えているからクモとの1対1の命の対決では
見劣りはなさそうであるが、結果は常にクモ
の勝ちである。その決め手は、クモの糸にあり
蜂の羽が少しでも触れると蜂の反撃はほと
んど止まり、短時間でノックアウトになり、
見ていて残念である。クモの仲間のうち、大
開のジロウクモは、蜂場の巣箱近くに
大きな網を堂々と張り、巣箱から出入する
蜂を幾匹も捕食する大敵である。花の
上で昆虫の飛来を待つハナクモの仲間
には、植物の葉の色と同じ保護色の種
類もいる。小柄なクモでありながら、蜂と
の1対1ではクモの勝利はあぶらな
がなく、全く一方向的な閉幕である。

ミツバチの巣箱の中には、ハサミムシ・ゴ
キアリ・アシダクモなどの居候が少なくない。
アシダクモは大形種で、ゴキアリの
捕食者であるといわれている。時には、蜂
群の近くや巣箱の入口近くにおいて門番役
をしているのかと直感されることもある。先
年、私はコアシダクモを捕えて昆虫飼
育箱に移し、そこに生きている小蛾を
入れると消極的に捕食した。同様の方
法で、今度はミツバチを入れてようすを見守
ると、クモはミツバチを易々と捕食した。こ
の簡単な実験結果から、蜂群中に同
居するアシダクモはミツバチを守る番人
ではなく、反対に宿敵であることが確認
でき早速ブラックリストに登録した。」

アシダクモとコアシダクモ、ミスフン
トの「なけれは」なかなかむずかしい問題
です。(松本)

1年間の培養カモ、皆に発症しないと
空の持ち腐れとなりませう。

短報も大歓迎です。

DRAG LINE へ投稿して下さい。
KISHIDAIA 原稿募集。

三合同例会のお知らせ

12月7日(日) 10:00 am - 大橋正民会館
(目黒区立)

参加費は300円、昼食は各自で用意下さい。

クモ同定会のお知らせ

9月24日の運営委員会で、会員から多くの希望のあつた同定会の実現に努力すべきとの決定があり、今回はとりあえず、会員のみで行なうことを決めました。将来は、底辺拡大のためにも、一般に呼びかけるつもりで、会員は、同定着力を付けていこうと、考えています。宜しくご協力下さい。今回は、明年1月か2月に実施し、その結果を見て、あせらすに続けていこうと考えています。具体的な方法は、これからですか、皆様には、未同定の標本 ~~送付~~ 等、ご用意、ご準備下さい。勿論、クマコミに趣よる非会員の参加は構いません。詳しくは今後の連絡をお待ち下さい。また、具体的な方法(同定者の選定・同定標本の寄贈・同定結果の発表・一般参加者へのアフターケア等)について、ご意見、ご希望があれば、お寄せ下さい。

(以上二題：東京蜘蛛談話社会運営委員会)

<写真だより>

クモタケを川崎市内で採集

クモタケ *Isuria atypicola* Yasuda は、安田が東京において発見したものである。

1973年6月20日、川崎市幸区の神社境内で採集することができた。子座は棍棒状、柄部は白色で約15mm、寄主の頭胸部より生ずる。先端部の結実体は淡紫色で約10mm、表面は分生胞子におおわれている。基部はやや太く寄主体を包蔵する。

キノウエトタゲモ *Latouchia typica* Kishida に寄生し住居戸蓋を押し上げて先端を地上に突出する。川崎市よりの記録は初めてかと思われるので、ここに採集品の写真と共に報告し、おく。

データ：アサヒペンタックス SP 中間リング ストロボ使用 ネオパン SS。

(高橋 豊・神奈川県川崎市)

遺伝(裳華房) Vol. 29, No. 4, p. 40, 1975 より



Bob Dylan (1966) Tarantula.
The Macmillan Co.

訳者は、片岡義男訳で、角川書店から「海外ベストセラーシリーズ」の内にあります。A5. 246p. ¥1,200-。但し、クモの本ではありません。(2本)

ライオン・ネーチャアラビアン「昆虫」1973⑥
<改訂版>中、p. 32のメラクモの写真は、ユウレイクモのようです。(体の形・脚の節節などから)。Daddy long leg をメラクモにもユウレイクモにもあつるの? 現同したのか? (不本)

東京蜘蛛談話会蔵書目録

(コピーに応じます。申込は事務局まで)

- No. 41 松本誠治(1973) 東邦大学校内のクモ類。MIMOSA(東邦大学学友会生物
部報), (3): 51-56
42. 東亜蜘蛛学会刊(1973) ATYPUS No. 60, 55p.
第4回大会講演題目。
松本誠治: クモの珠色作観察の-方法(分1報) p. 4.
八木沼健夫: コホラヒメクモとチビホラヒメクモの再検討 pp. 5-6
村上勝: 愛知県産真正蜘蛛類について p. 7
西川英朗: クモのフウナの調査について pp. 7-9
大久保襄: ハ重山群島のクモ pp. 9-10
本田重義: ハ重山・洞輪伏の高茎草原における造網性クモ群集
の研究 — 群集構造模式図作成の試み — pp. 11-12.
大会参加者名簿 p. 14,
八木沼健夫: 第4回大会所感 p. 15.
八木沼健夫: ATYPUS 60号に当り感あり pp. 2-3
篠原圭三郎: 多足類の食性 — 特に食餌関係とシマのクモと多足類
— pp. 16-17.
中平清: 鶴来島・沖ノ島探蛛行 pp. 18-26
福本伸男: クモ類の造網動作(I) スズミクモ主網の足端系説
について pp. 27-30
山川守・熊田憲一: 丹沢山塊の真正蜘蛛類 pp. 31-54.
43. 山川守・熊田憲一(1973) 丹沢山塊の真正蜘蛛類。ATYPUS, (60): 31
-54
44. 山川守(1973) 横決のクモ — 係エツ谷 —。KISHIDAIA, (36): 1-5
45. 下柳名松栄(1973) ハ重山群島の石灰洞窟の動物相調査報告。
沖縄生物教育研究会誌, (6): 1-26
46. 多足類懇談会刊(1973) TAKAKUWAIA No. 6, 8pp.
渡 宏: 南紀における南方系のヤステについて pp. 1-2.
第4回例会記録 p. 2.
高野光男: 伊豆新島のも足類 pp. 3-4.
入江照彦: シマの卵のうを求めて。pp. 5-6.
篠原圭三郎: 東亜産多足類文庫目録 第30集 pp. 6-8
47. 平松信夫(1970) ショロウクモの観察。採集と飼育, 32(9): 299-

本会の蔵所、そろそろ残り少なくなってきました。どうしたら増やしてしょうか。個人所有のものでも、コピーを本会に集めるという方法も、文献の一般公開というよりはよいことかと思えます。しかしこれ、皆が同じ意識を持つないと実現不可能です。よい方法をお教え下さい。コピーの労は、分量にもよりますが、いとわないつもりです。会員の皆様の協力があれば、はじめて、着実に活動出来ると思っております。

。本号(No.8)に同封しました「東京蜘蛛談話会 会員名簿」は、梅林カ氏のご協力により出来上りました。氏はかり切り・印刷・装本の労働力と、必要な資料まで全て負担して下さいました。全て寄附するとの難由、運営委員会は勿論、名簿発行を待た望んでいた方々には、氏に対して、多大な感謝をしなければなりません。年賀状などに間に合ったことは、利用価値も高いものと思えます。

。本年は、採集・観察会を、丹沢ヒジリ峠、富士山、滝山城趾と3回行なわれました。それぞれの成績を KISHIDAIA No.40 に掲載する予定になっています。参加された方にお願ひ致します。

ヒジリ峠の成績は 栗原輝代子氏へ
富士山の成績は 小野辰嗣氏へ
滝山城趾の成績は 新海栄一氏へ
それぞれお送り下さい。The sooner, the better! としておきます。宜しく、

。滝山城趾採集・観察会のお知らせの葉書が、「サシ味活の合衆誌・葉料」のよになつていましたが、全くの不注視で起きましたことです。故意でしたことでないことをお知らせして、お詫び申し上げます。読み難いお知らせで、申し訳ありませんでした。(オズ本)

。本号1ページに、大熊十代子氏がアシタガシモ科を特に集められている由を報告しました。談話会員の中には他にも、グループを限らず、特に興味を持っておられる方がいますので、ご協力、ご寄附すると共に、同定等への便宜を計らって貰えれば、と思ひお知らせ致します。いわゆる専門分野ということになります。分類関係に限りますが、今後は、自己紹介の形で、各自の専門分野をお知らせ願えれば、後輩へのアドバイザーとして、談話会の目的に沿った働きをしていただけたらと思ひます。

大熊十代子氏 アシタガシモ科

小野辰嗣氏 カマクモ科
笹田憲一氏 コモリクモ科
小松敏宏氏 洞穴性クモ類
権田重雄氏 フクロクモ科
斎藤博氏 コサラクモ科
田中徳博氏 コモリクモ科
西川孝朗氏 ヤナクモ属
松本誠治 ハトリクモ科

その他に「ムシクモ科」といふ方がいます。新海栄一氏、十国安之輔氏は、幅広く同定の出来る方々です。

小林久俊氏 ヲウクモ科、コサラクモ科

分類学の分野以外に目を向けると、石野田辰夫、入江照雄、大野正男、大村房久、萱嶋泉、近藤昭夫、菅波洋平、須賀瑛文、築地簡男、福本伸男、古内栄一、吉金真、米田宏という方々が、本会のメンバーです。それぞれの分野で活躍されています。その他の会員も、発表はあまりしていませんが、活動には力をしています。大まか、ACTIVITYの高い会々をおぼえています。是非、通信には、ちよとちよと近況、一例報告などをお知らせ下さい、と思ひます。是非と。金の持ち腐れは、ないようには、お願ひいたします。(オズ本)

。今年の通信は本号が最後です。明年1月の予定、皆様には、良いお年をお迎え下さい。

東京蜘蛛談話会

本部：191、日野市豊田1896

萱嶋泉示

Tel. 0425-81-7128

事務局：185 国分寺市本号1-6-6

新海栄一示

Tel. 0423-21-0289

編集局：211 川崎市中原区小杉町1-540

小野辰嗣示

Tel. 044-722-2225

会費：54年度700円、51年度1000円

会計年度は暦年と同じ、会費数65名

KISHIDAIA (1977年版) 年1回発行

談話会通信(4号オフト) 年数回発行

通信発行責任者は 松本誠治 示